

回線暗号装置 COMCIPHERシリーズ

COMCIPHER XL2B

COMCIPHER XL2Bは、総務省及び経済産業省電子政府推奨暗号リストにラインナップされている、「AES(FIPS-197準拠)」※1を採用した回線暗号装置です。ネットワークの回線区間に設置することで、通信回線上のデータを不正アクセスから保護します。

※1・AES(Advanced Encryption Standard)：総務省及び経済産業省電子政府推奨暗号リストにラインナップされ、米国政府の標準暗号化方式として採用されている暗号アルゴリズム

・FIPS(Federal Information Processing Standards)：米国政府調達のための情報処理標準規格



外観は変更になる場合があります。

主な特長

- 10Gbpsワイヤレートに対応し高スループットを実現。
- 暗号専用装置であるため、遅延時間も極めて少なく、速度低下の心配なく導入が可能。
- 既存ネットワークの終端装置とルータ・スイッチ等の機器の間に接続するだけで、回線区間の暗号化が実現可能。
- レイヤ2のペイロード部分を暗号化する為、IP以外のプロトコルでも暗号通信が可能。
- 総務省電子政府推奨暗号及び米国政府次世代標準暗号アルゴリズムである「AES (FIPS-197準拠)」を採用。
- セキュリティを高めるため、データを暗号化／復号するワークキーを定期的に更新可能。
- WAN側／LAN側インタフェースは10GBASE-LR、10GBASE-SRに対応。
- タンパレジスタント構造の採用により暗号鍵を安全に保持可能。
(装置解体等不正行為に対し、設定情報及び暗号鍵を自動消去)
- セキュリティ管理のための履歴データ収集が可能。(アラーム履歴も収集可能)
- ローカル端末上のブラウザソフトによるGUI制御、SNMPによる監視機能に対応。
- NTPクライアント機能をサポートし時刻同期によるログ管理が可能。
- 最大1023台のCOMCIPHER(AES)シリーズとの対向通信が可能。
*ただし、対向する際には暗号鍵長(キービット数)を統一する必要があります。
- マルチキャストフレームの暗号化機能を搭載し、データ・映像配信サービスへの対応が可能。
- Syslog機能をサポート(新機能)

主な仕様

装置名称	COMCIPHER XL2B	
暗号化方式	AES (FIPS-197準拠)	
キービット数	256bit	
キー構成	(1) 共通鍵 ①マスタキー (ワークキー暗号化用) ②ワークキー (データ信号暗号化用) ③マルチキャストキー (マルチキャストデータ暗号化用) (2) 公開鍵 (マスタキー暗号化用)	
適用回線	レイヤ2サービス回線 (広域イーサネット接続サービス)、ダークファイバー	
スループット (双方向)	10Gbps	
インタフェース	WAN-CIPHER	10GBASE-LR/10GBASE-SR (モジュールの選択により変更可能)
	CIPHER-LAN	10GBASE-LR/10GBASE-SR (モジュールの選択により変更可能)
	ローカルポート	100BASE-TX(MDI-X)
暗号化/復号フレーム	ユニキャスト、マルチキャスト	
適用構成	ポイント・ツー・ポイント、ポイント・ツー・マルチポイント マルチポイント・ツー・マルチポイント	
物理鍵による保護機能	物理鍵により装置設定用ローカルポートを保護	
対向可能な暗号装置数	1023台 (同一ネットワーク上に1024台の設置が可能)	
登録及び学習可能な端末数	2000台 (対抗可能な暗号装置含む)	

日本電気株式会社

〒108-8001 東京都港区芝五丁目7-1 (NEC本社ビル)

NECマグナスコミュニケーションズ株式会社

〒212-0031 神奈川県川崎市幸区新小倉1-2

URL: <https://jpn.nec.com/access/index.html>mail: access@ml.magnus.nec.co.jp

- 本リーフレットの中の社名、商品名は各社の商標または登録商標です。
- 本リーフレットに記載された仕様、デザインなどは予告なしに変更することがあります。
- 商品の写真は印刷のため、商品の色と異なる場合があります。